

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

代読代筆支援の標準カリキュラムの作成に関する研究

研究分担者 木村浩彰 広島大学病院リハビリテーション科 教授

研究要旨

近年の国連の障害者権利条約批准の動きを研究した。代読代筆に対する具体的な社旗的配慮を示した。現在のテキストをさらにブラッシュアップすることに加えて、1.多言語に対応できるようにすること、2.スマートフォン、タブレット端末などの最新のIT技術の応用できるようにすること、3.個人情報の保護の徹底、を盛り込んだ代読・代筆の支援のための全国共通となりうる新たな標準カリキュラムを総合的に作成した。

A．研究目的

視覚障害者が必要とする代読・代筆の支援について、都道府県等の研修会等で活用するための全国共通のマニュアルとなるべき項目を明らかにした標準カリキュラムを作成することを目的とする

B．研究方法

短期間での研究であるため広島市の心身障害者福祉センターで同行援護従事者養成に用いている「同行援護従業者養成研修テキスト」(中央法規出版)(以下、現行テキスト)の代筆・代読部分をベースにすることにした。医療従事者、研究者、当事者団体、行政関係者(広島県、広島市)からなるWorking Group(WG)(総勢20名程度)を組織した。そのメンバーで現行テキストの問題点、改善が必要な点を明らかにするための情報収集を行い、改善が必要と思われる部分の記載を追加した。

WGで現行テキストの問題点、改善が必要な点を明らかにした。視覚障がい者の個人情報保護と援護者の倫理について調査し、具体例の作成、および全体の文章の書き換えを行った。国際的な障がい者権利の推移、一般的注意事項の記載を行い、テキスト全体のブラッシュアップを行った。

(倫理面への配慮)

視覚障がい者、関係医療従事者、教育学部(特別支援教育専攻)の学生、関係団体・行政等に対して、インタビューまたは聞き取り式/自記式のアンケートを実施する。調査の前には広島大学倫理委員会の承認を得る。また、本研究は既刊テキスト編集委員会の承諾を得た。

インタビュー、アンケートの際には事前に口頭で本研究の目的を説明した上で、同意に応じた者のみから回答を得る。同意取得のための説明を行った日時、場所、説明

者等必要事項は記録を作成する。

アンケートデータを発表または会議資料として用いる際は、職種や当事者としての立場などの必要な情報以外の個人情報削除し、回答者の個人が特定できないようにする。

インタビュー、アンケートデータの収集・編集に使った情報メディア（用紙、音声レコーダー、PCなど）は広島大学病院の鍵の掛かる部屋で管理し、研究以外の用途に使用しない。

上記の情報メディアは、研究終了後にデータのコピーをDVD-Rに保存した上で、広島大学の規定に従って消去または処分する。DVD-Rは10年間保存し、不要の際は広島大学の規定に従って処分する。

C．研究結果

2006年12月国連総会で「障がい者の権利に関する条約」が採択され、障がい者の人権や尊厳に関して国際的に規定された。日本は2007年9月28日この条約に署名し、障害者基本法と障害者雇用促進法の改正、障害者総合支援法と障害者差別解消法を成立させ、2014年1月20日「障がい者の権利に関する条約」を締結（批准）した。この条約には、障がいに基づく差別の禁止、

教育・雇用・文化・スポーツ等へ障がい者の社会参加促進、社会的障壁の是正、

国内の実施と監視などが規定され、2016年4月1日から障害者差別解消法として施行された。代読や代筆の対象者として、視覚障がい者だけでなく、ディスレクシア（文字は見えるが読んで理解しにくい）や身体が不自由で読めない方、日本語文が読めない外国の方、高齢者とされ、身体障害者手

帳を所持していなくても支援の対象とする。支援内容も、勉学上必要なものや研究活動等で使う資料や学校提出書類等、職業上必要なもの、日常生活上必要なものが挙げられている。

D．考察

実際の同行援護従事者養成研修ではまだこのテキスト案を使用していない。実際の研修での有用性問題点が明らかでない。また、必要とも追われるポイントをすべて網羅した。詳しくすぎる点、他のカリキュラムと重なる点が出てくるかもしれない。今後、研修の場での経験を基に修正する必要がある。

E．結論

当初掲げたこのテキストをさらにブラッシュアップすることに加えて、1.多言語に対応できるようにすること、2.スマートフォン、タブレット端末などの最新のIT技術の応用できるようにすること、3.個人情報の保護の徹底、を盛り込んだ代読・代筆の支援のための全国共通の新たな標準カリキュラムを作成する。という目的は達成した。

F．健康危険情報

ない

G．研究発表

1. 論文発表

木村浩彰、永富彰仁、牛尾会．内部障害リハビリにおける骨格筋電気刺激．腎と透析，80(2)285-289,2016

木村浩彰．重複障害のリハビリテーション3．脳・神経と骨・関節,63-68,2015

山根直哉、窪優子、木村浩彰．iPadを使うこ

とによりコミュニケーションおよびソーシャルネットワークが可能になった 1 例. 国立大学リハビリテーション療法士学会誌, 37:100-104, 2015

柳田直美、木村浩彰. 発達性読み書き障害児に対する視覚認知機能を必要とした課題の試み. 日本作業療法学会抄録集, 47:778-778, 2013

Mikami Y, Fukuhara K, Kawae T, Kimura H, Ochi M. The effect of anti-gravity treadmill training for prosthetic rehabilitation of a case with below-knee amputation. Prosthet Orthot Int, 39(6):502-506, 2015

Yuichi Nishikawa, Junya Aizawa, Hiroaki Kimura. Immediate effect of passive and active stretching on hamstrings flexibility: a single-blinded randomized control trial

J. Phys. Ther. Sci, 27:3167-3170, 2015

2. 学会発表

木村浩彰、永富彰仁、三上幸夫. 障害者スポーツ支援における広島大学病院スポーツ医科学センターの現状. 第 24 回日本障害者スポーツ学会, 2014 つくば国際会議場 茨城

25

木村 浩彰. 血行障害による下肢切断のリハビリテーション. 第 10 回日本リハビリテーション医学会専門医学会学術集会, 2015, ソラシティカンファレンスセンター 東京

26

木村浩彰、竹内 豊計. 膝蓋骨脱臼に対する Patella Pro 装具の経験. 第 31 回日本義肢装具学会学術大会, 2015 パシフィコ横浜 神奈川

27

木村浩彰、永富彰仁、三上幸夫. 広島大学病院における ADL 維持向上等体制加算の現況. 第 52 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2015, 朱鷺メッセ 新潟

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし